

ウルグアイ経済報告（12 月分）

【概況】

- 12 月の消費者物価指数（対前年同月比）は 8.79%となり，先月に続き政府のインフレ目標（3～7%）を上回った。前年同月比で食料品・ノンアルコール飲料及びレストラン・ホテルの分野では 2 桁，それ以外の分野では 1 桁台の増加であった。
- 12 月の対ドル為替レートは平均 37.58 ペソと，前月比 0.7%のペソ高となった。
- フリーゾーンからの輸出を含む 2019 年の輸出総額は 9,146 百万米ドルとなり前年比 0.7%増となった。大豆，牛肉の輸出が好調であった一方，生体牛，セルロース，木材の輸出が不調であった。2019 年は米中貿易摩擦が発生し，米中両国が一定の製品に対する関税率を引き上げたことが国際貿易に大きな影響を与えた。特に，米国による中国産の衣類・靴への関税引き上げが需要減少・価格低下を招いた結果，ウルグアイから中国への木材，羊毛の輸出が減少した。
- 2019 年の輸出額第 1 位は牛肉で，輸出総額は 1,798 百万米ドル（前年比 11%増）となった。アフリカ豚コレラの影響により豚が減少した中国への牛肉輸出増加が，輸出増加の主な要因（輸出量全体の 35%が中国への輸出）。同 2 位はセルロースで，米中貿易摩擦の影響による中国国内での需要減少と生産国の増加に伴い，輸出総額は 1,527 百万米ドル（前年比 8%減）となった。輸出全体の 48%が EU，32%が中国，12%が米国への輸出であった。同 3 位は大豆で，天候に恵まれ収穫量が大幅に増加したことで，輸出総額は 1,002 百万米ドルとなった（前年比 90%増）。輸出量が前年の 2 倍以上に増加した一方で，米中貿易摩擦及び中国でのアフリカ豚コレラの発生による需要減少の影響を受け国際価格は低下した。同 4 位は乳製品で，輸出総額は 649 百万米ドル（前年比 5%減）となった。輸出全体の 7 割が粉ミルクで，年末には国際価格が上昇するも，輸出量全体の減少をカバーするには至らなかった。主な輸出先は，1 位アルジェリア，2 位ブラジル，3 位中国となった。同 5 位は炭酸飲料原料で，国際価格は低下したものの，輸出量増加（前年比 17%増）により 524 百万米ドル（前年比 11%増）となった。同 6 位はコメで，輸出量は増加（前年比 6%増）したものの，主要輸出国での価格調整とより安価なもみ殻付きのコメの輸出増加に伴い輸出額が減少し，輸出総額は 372 百万米ドル（前年比 6%減）となった。主な輸出先は，1 位ペルー，2 位メキシコ，3 位ブラジルであり，右主要輸出先に加え，キューバ，トルコ，セネガル等の新たな市場が開拓されたことも輸出増加の要因。

- 輸出が特に不調であったのが生体牛で、主な輸出先であったトルコが、ブラジルをはじめとするより低価格な市場からの輸出を優先したことに伴い輸出量が大幅に減少。輸出総額は前年の半分以上に相当する 100 百万米ドルとなった。
- 2019 年の主要輸出先を見ると、2013 年から継続して中国が輸出先第 1 位となった。輸出総額は 2,872 百万米ドル（輸出額全体の 31%）で、牛肉及び大豆の輸出増加に伴い前年比は 23%増となった。同 2 位は EU で、輸出総額は 1,532 百万米ドル（輸出全体の 17%）となった。大豆の輸出は増加するも、セルロース及び牛肉の輸出減少に伴い対前年比は 8%減となった。輸出の約半分はセルロースで、右に続き牛肉、木材が主な輸出品となっている。国別に見るとセルロースの主要輸出先であるオランダ、イタリア、ドイツが主な輸出先で、特にオランダはウルグアイ製品が EU 諸国に入る入口としての機能を担っている。同 3 位のブラジルへの輸出総額は 1,198 百万米ドルで、麦芽飲料、小麦、大麦、コメ等の農産品の輸出増加に伴い輸出総額の前年比は 5%増となった。同 4 位は米国で、セルロース、木材の輸出増加に伴い輸出総額は 628 百万米ドル（前年比 3%増）となった。輸出全体の 33%が牛肉、28%がセルロース、8%が木材であった。同 5 位のアルゼンチンへの輸出額は、主要輸出品である自動車部品及び大豆の輸出量減少に伴い 369 百万米ドル（前年比 21%減）となった。同 6 位はメキシコで輸出総額は 286 百万米ドル（前年比 13%減）となった。輸出全体の 49%が炭酸飲料原料、16%がコメ、10%が乳製品であった。

【トピック】

1 政権交代に向けた経済財務大臣会合

12 月 20 日、政権交代に向けアストリ経済財務大臣とアルベレチェ次期経済財務大臣が会合。アルベレチェ次期大臣は、公共料金を値上げしないとの現政権の決断を裏付ける国营企業の収支報告書が提出されていない点を指摘したが、現政権側は右資料の提出要請を正式に受けていないと述べた。

2 IMF ミッションのウルグアイ訪問

12 月 11 日、ウルグアイの経済状況調査のため国際通貨基金（IMF）のミッションがウルグアイを訪問し、アルベレチェ次期経済財務大臣、ブランコ次期経済次官及びラバト次期中央銀行総裁と会合した。

3 ラカジェ・ポウ次期大統領の UPM 社訪問

12 月 5 日、ラカジェ・ポウ次期大統領はフィンランドのセルロース会社 UPM 社幹部と会合した。同社はウルグアイ政府との間で、リオ・ネグロ県の水質改善のための国家計画促進を目的とした 10.5 百万米ドルの投資規約に署名済みであるが、今次会合にてラカジェ・ポウ次期大統領は、水質改善に関する更なる協力を依頼した。

4 経済成長

12 月 17 日の中央銀行発表によると、2019 年第 3 四半期のウルグアイ経済は、対前年同期に比べ 0.9%成長した。また、GDP の対前期比は、0.6%増となった。

5 失業率

12 月 6 日の国家統計院（INE）の発表によると、10 月の失業率は 8.8%（対前月 0.7%減、対前年同月比 0.2%増）となった。

6 財政赤字

12 月 31 日の経済財務省の発表によると、本年 11 月までの 12 ヶ月間の財政赤字の対 GDP 比は 4.8%となり、10 月に比べ 0.1%増加した。GDP に占める収入の割合は 31%と 10 月に比べ 0.1%減少した。また、GDP に占める一次支出の割合は、電力公社（UTE）をはじめとする企業の投資増加と燃料公社（ANCAP）による原油のストック・副製品の製造に伴い 31.4%となり 10 月に比べ 0.2%増加した。

7 製造業生産活動指数

国家統計院（INE）の発表によると、10 月の燃料公社（ANCAP）を抜いた製造業生産活動指数（IVF）の前年同月比は 5.6%減となった。特に不調であったのが、石油・石炭製品産業で、前年同月比は 19.5%減となった。一方、医療機器、眼鏡レンズ製造機器、精密機器の製造業については成長が見られ、前年同月比は 27.2%増となった。

（了）